

日本地衣学会

No.85

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	307
	地衣類相談室 一桃の節句のウメノキゴケ / 相馬なおみ・原田浩	307
	雲南地衣類調査行2007(その3) / 原田浩	309

会務報告 Reports of the JSL Activities

地衣類相談室 一桃の節句のウメノキゴケ

Lichen Information Desk — “*Parmotrema tinctorum*” on miniature peach tree as decoration of Doll’s Festival / Soma N. & Harada H.

相馬なおみ*・原田浩**： *千葉県白井市・**千葉県立中央博物館

原田先生 ご無沙汰しています。お元気ですか？白井市の相馬です。雛人形の桃の木にウメノキゴケらしいものがついていましたのでご鑑定下さい。ちなみにもう一本の橘の木にもついてます。この桃の木は、昭和36年北海道の函館生まれです。

.....

原田先生に地衣類を教えてもらった私は 大発見を

してしまいました。

いつもは何気なく飾っていたお雛飾りですが、金屏風の脇の桃の木に グリーンのペインティングを見つけたのです！

「ウメノキゴケだ！」

私は 咄嗟に大声を出していました。

・・・うわあ～、こんな小さな模型にまで 手が込んでいるなあ。このグレイッシュな緑色はウメノキゴケだよなあ・・・。レブラゴケ？？いやいや、桃の木なんだかウメノキゴケに違いない・・・



図 1. “ウメノキゴケ”が見つかった飾り。両脇の桃と橘にペイントされていた。

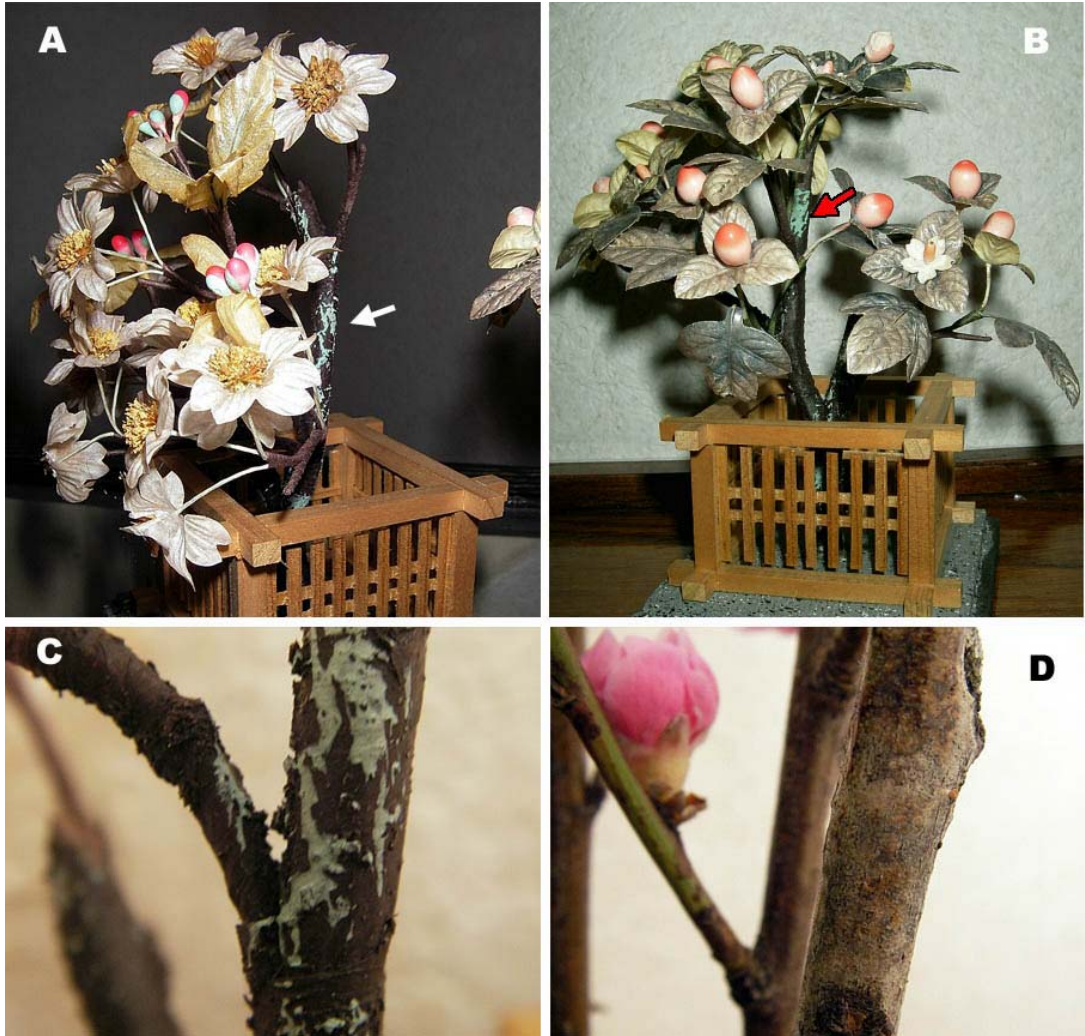


図2. 雛飾りの桃と橘. A, 桃飾り(矢印の箇所には地衣類を思わせるペイントが施されている). B, 橘の飾り(桃と同じようなペイントが矢印の箇所に見える). C, Aのペイント部分の拡大. D, 桃の切り花.

頭の中のわずかな地衣類の知識を総動員しましたが、
やっぱりしっかり同定しないとすっきりしません。

『雛飾りは3月3日のひな祭りが終わったら さっさと片付けてしまわないと娘がお嫁にいけなくなる』という言い伝えを信じている私ですが、今回は 同定していただく為に 一度片付けた雛飾りを再度取り出し、写真を撮りました。

原田先生は どう思われますか？

お忙しい中、申し訳ありませんが、どうぞよろしくお

ねがいたします。

2008.3.8. 相馬なおみ

* * *

相馬さん、とても興味深い雛飾りですね。

ウメノキゴケだったら、ほぼ円形の地衣体の輪郭が示されていて欲しいですが、いかがでしょうか？・・・問題の桃の箇所(図2Bの矢印、図2C)にそれらしい形はあ

りませんね、むしろ、色といい、形といい、レブラゴケのように見えます。レブラゴケは、桃を含めいろいろな樹種にも生えますので、矛盾はありません。

さてついですが、“レブラゴケ”がついている箇所は、桃の幹なのでしょう？枝なのでしょう？・・・確かに図2Cは、図2Dにあるような桃の細い枝のようにも見えますが、全体像（図2A）から察すると、幹あるいは太い枝のようでもあります。桃や梅、桜などでは（これらの樹種だけとは限りませんが）、細い枝先に地

衣類が目立つほどつくことは余りありません。もっと太い枝や幹なら地衣類がたくさんついていることはよくあります。すると、問題の箇所は、やはり幹あるいは太い枝だと考えてよいと思います。

それにしても、雛飾りの桃と橘に地衣類が描かれているとは驚きました。制作者は、自然をよく観察して、ずいぶんと細部までこだわって作られたのでしょうか。

原田 浩

雲南地衣類調査行 2007（その3）

A field trip for lichen study in Yunnan, China, 2007 (part 3) / by Harada H.

原田 浩（千葉県立中央博物館）

2007年10月16日、シャングリラは今日も晴れない。曇りがちで、時に小雨が降る。私と王（ワン）さんは、老王（ラオワン）さんと分かれて璧月谷山のロープウェイに乗って山上に向うことにした。このロープウェイは近年できたもので、移動距離は東洋一ということだ。始点はシャングリラ郊外の平地から少し谷に入った標高3500m程度で、終点は4000mを超える。運賃も一人250元（約4000円）と高い。

4人ほど乗れそうなゴンドラが3台か4台が連なっていた。王さんと私が乗り込むと、係員が外から扉を閉め、出発。眼下に紅葉を眺め、崖の脇をすりぬけるときは岩上や樹木につく地衣類に目を奪われた。支柱の脇を通過するときにガタガタと大きく揺れた。また、1分ほど停止するこ

とが何回かあった。恐らく、ゴンドラが駅に着くときに停止するのだろう。ともあれ、風景を楽しみ、スリルを味わいつつ、璧月谷の駅に着いた。山上に行くには、ここで乗り換えなくてはならない。

外に出て行き先を見ると、ロープウェイの支柱が斜面を登っているのが見えたが、その先は白い空に溶け込んでいてよく見えない（図2）。係員によると、雪が降っているという。それでは地衣類の調査どころではなさそうだが、高い料金を払ってせっかくここまで来たのだから



図1. ロープウェイからシャングリラ方面を望む。ナーパーハイと呼ばれる平原を挟んで、向こうにシャングリラの街がある。平原では、ヤクや馬が放牧されている。



図2 (左) . ロープウェイ中継駅から山上を望む。

図3 (右) . 山頂駅の外は横殴りの雪だった。調査をあきらめた。

図4 (左下) . 採集品は無く、代わりに雪茶と紅雪茶をお土産にした。

すぐに帰りたかったが、帰りのゴンドラに乗るには、駅を出て、展望台をぐるっと回る木道をたどらねばならないのだという。選択の余地はないようだ。

外は横殴りの雪だった。幸い2分ほどで展望台に着いた。もし晴れていれば、眼下には湖が見え、遠方に多くの名峰を望むことができるのだという。つくづくついていない。例年なら10月は好天が続くということで、この時期に来たのだが・・・、ここ何年か雲南省の天候はおかしいのだと言う。

寒いだけの山上を後にして、中継駅まで戻ると、そこには、お土産屋があり、何名もの店員が暇そうにしていた。そこで、雪茶(=ムシゴケ *Thamnolia vermicularis*)と紅雪茶(*Lethariella* spp.)を買い(図4)、かろうじて手ぶらで帰ることは免れた。(つつく)

ら、最後まで行くことにした。

果たしてゴンドラの外は、小雨から次第に雪に変わった。終点に着いたが、やはり調査どころではない。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 85, pp. 307-310: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the Japanese Society for Lichenology, 24 March 2008.

日本地衣学会ニュースレター 85号

発行日：2008年 3月 24日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2008 日本地衣学会 (© 2008 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。